

第2章 高岡市の都市構造の現況と課題

1 高岡市の現況と今後の情勢

(1) 中心市街地の空洞化や機能の低下

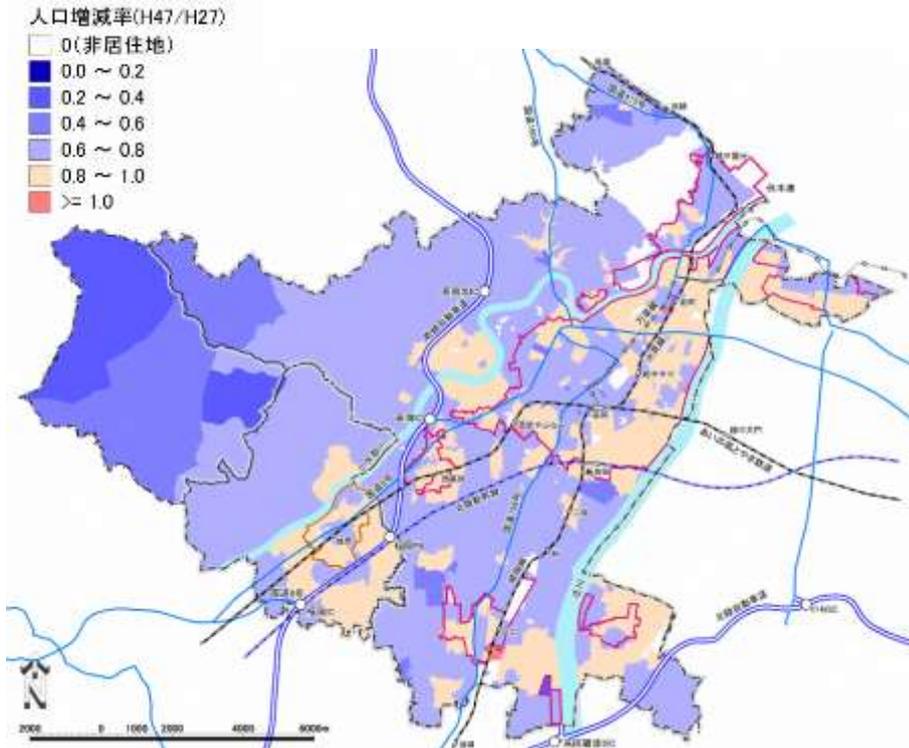
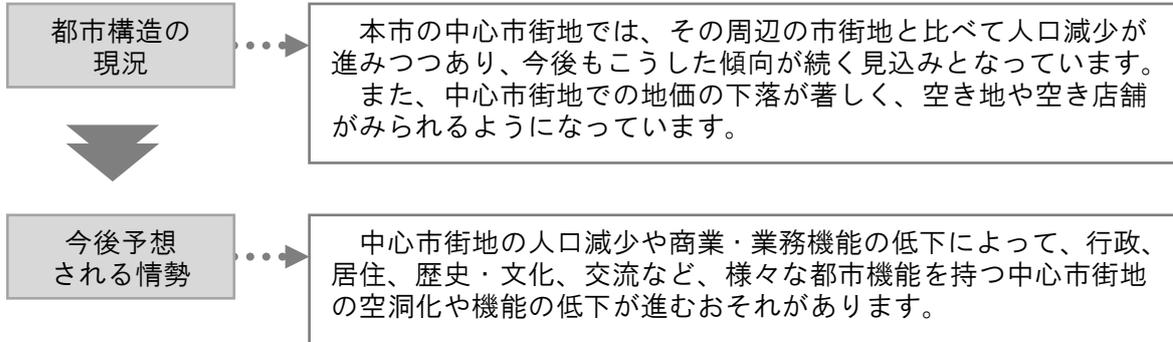
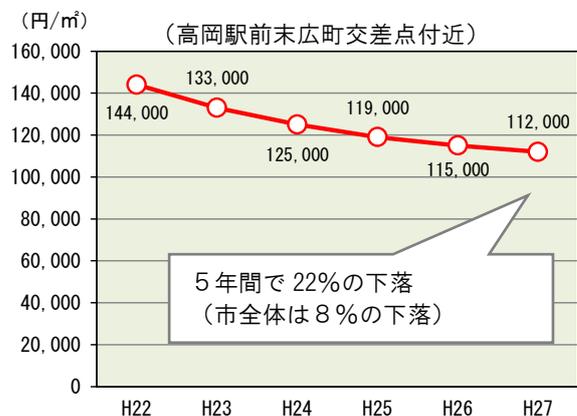


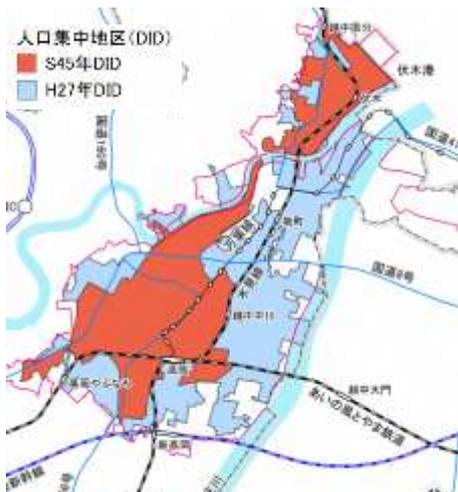
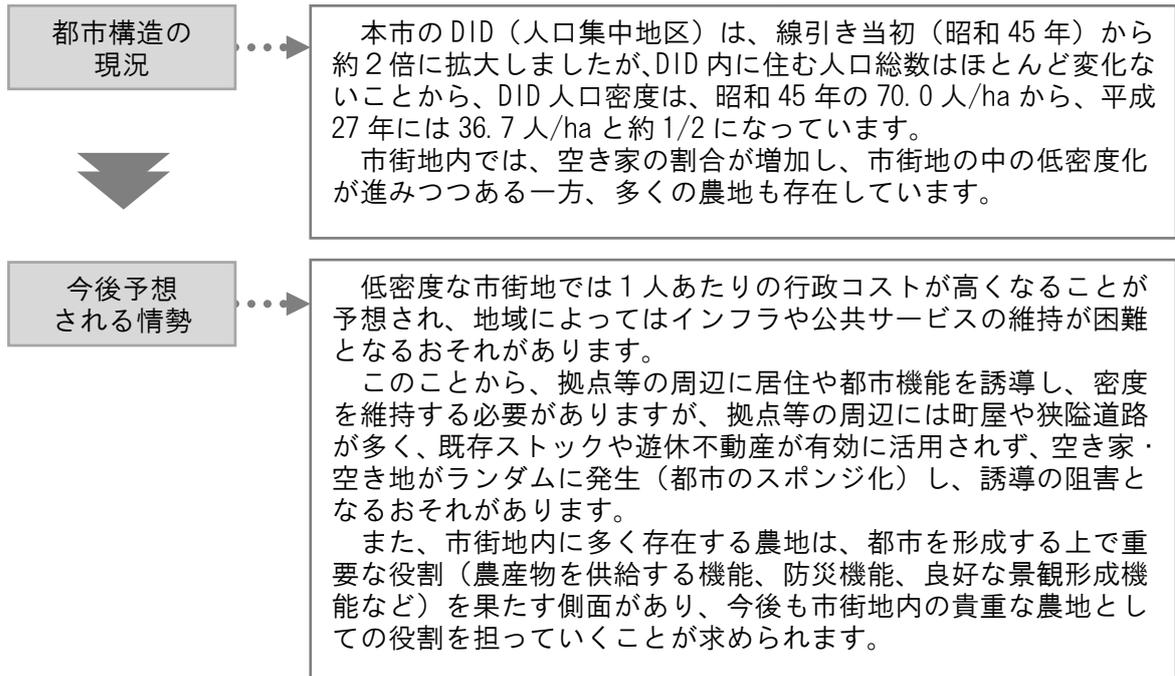
図 将来の人口増減の見通し (H47/H27)



(資料：地価公示)

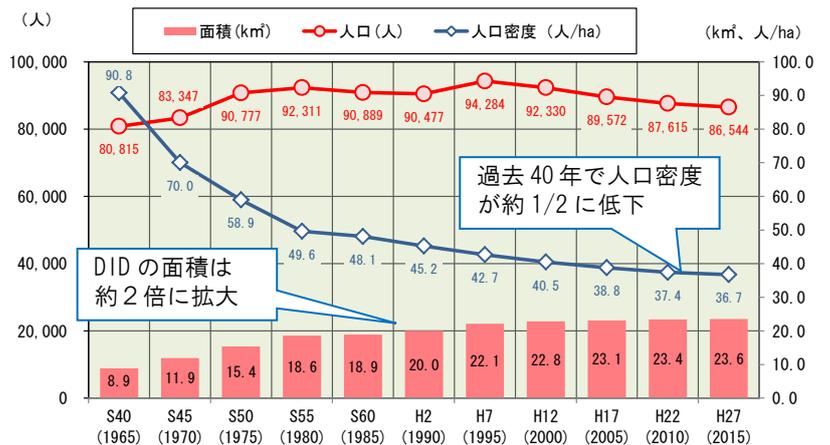
図 中心市街地の地価動向

(2) 低密度に拡大した市街地



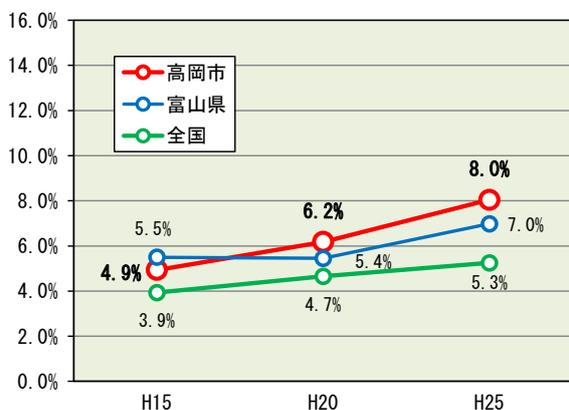
(資料：国勢調査)

図 人口集中地区（DID）の変化



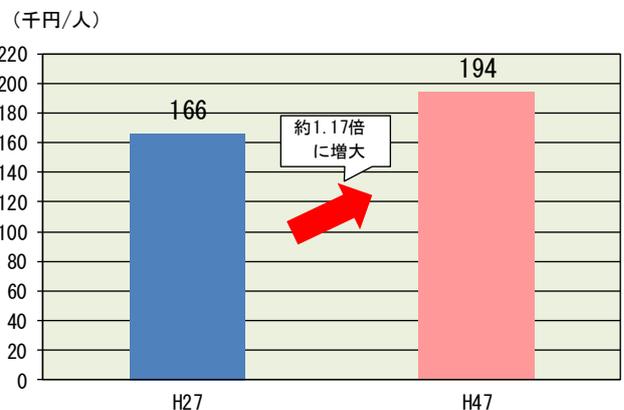
(資料：国勢調査)

図 人口集中地区（DID）面積等の変化



(資料：住宅・土地統計調査)

図 空き家率（※1）の推移



(資料：市町村別決算町状況調等)

図 1人あたりの行政コストの変化（※2）

- (※1) 住宅・土地統計調査の「空き家」に関する以下の4区分のうち「その他の住宅」のみを空き家として集計
- ・二次的住宅（別荘等）
 - ・賃貸用の住宅（賃貸のために空き家となっている住宅）
 - ・売却用の住宅（売却のために空き家となっている住宅）
 - ・その他の住宅（上記以外の長期にわたって不在の住宅や建替などのために取り壊すことになっている住宅）
- (※2) 現在の公共施設や行政サービスを維持し続けると仮定した場合の変化（小学校・中学校・幼稚園・保育所・公民館等、上水道、下水道、道路橋梁、公園、ごみ収集に係るコストから算出した変化量）

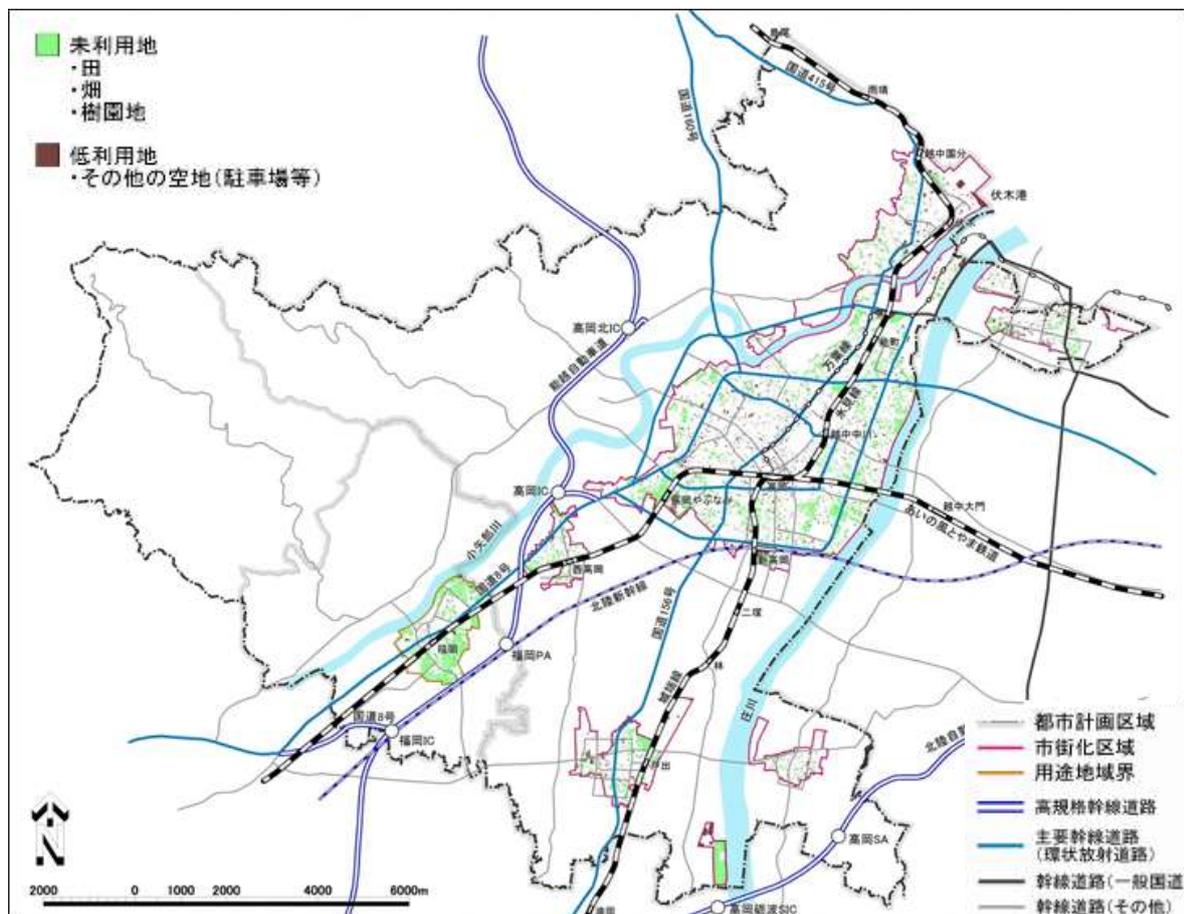
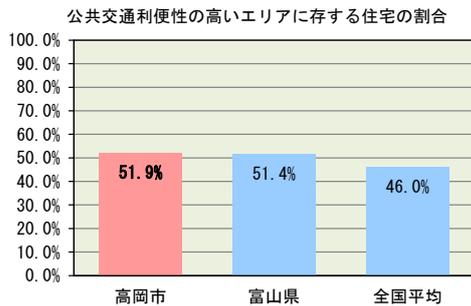
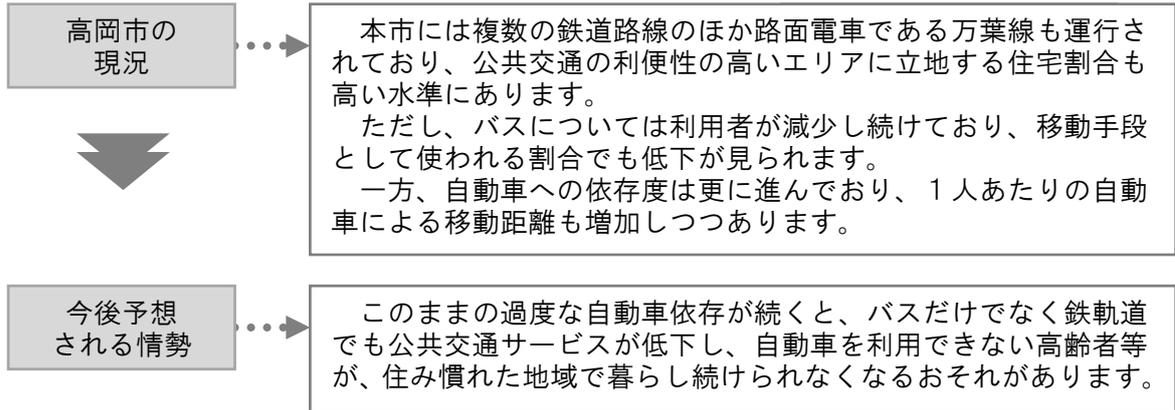


図 低未利用地の分布 (H25)

(資料：都市計画基礎調査)

(3) 自動車に過度に依存した交通



区分	高岡市	富山県
距離別住宅総数	61,810	379,800
駅まで1km圏内、もしくはバス停まで200m圏内の住宅数	32,050	195,400
公共交通利便性の高いエリアに存する住宅の割合	51.9%	51.4%

注1：住宅・土地統計調査で区分されている、駅から1km内、もしくはバス停から200m内の範囲。なお、路面電車は「駅」に含まれる。

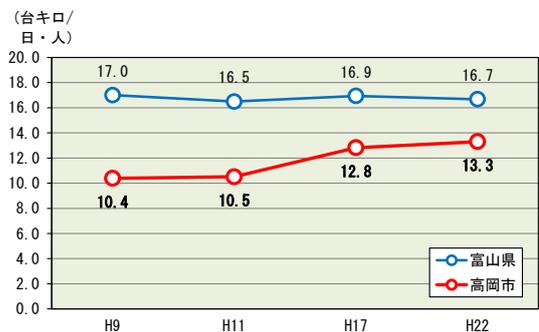
(資料：住宅・土地統計調査(H25))

図 公共交通利便性の高いエリアに存する住宅の割合 (H25)



(資料：国勢調査)

図 移動手段分担率の変化



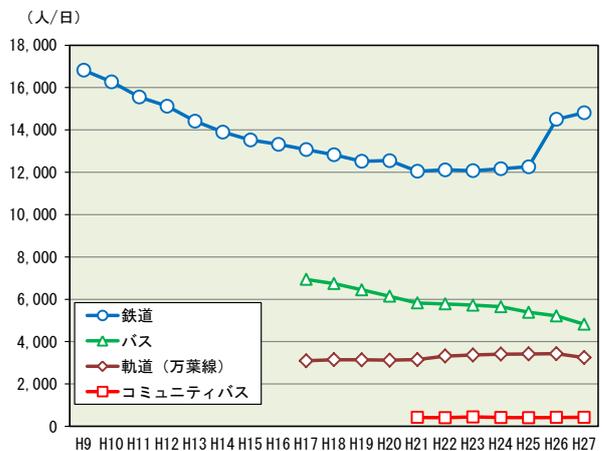
(資料：道路交通センサス)

図 1人1日当たり走行台キロの推移



(資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所)

図 年齢別の人口増減の見通し



注：H26年以降の鉄道には新幹線利用客が含まれる

(資料：富山県統計年鑑、高岡市統計書)

図 公共交通利用者数の推移

(4) 生活サービス施設の分布

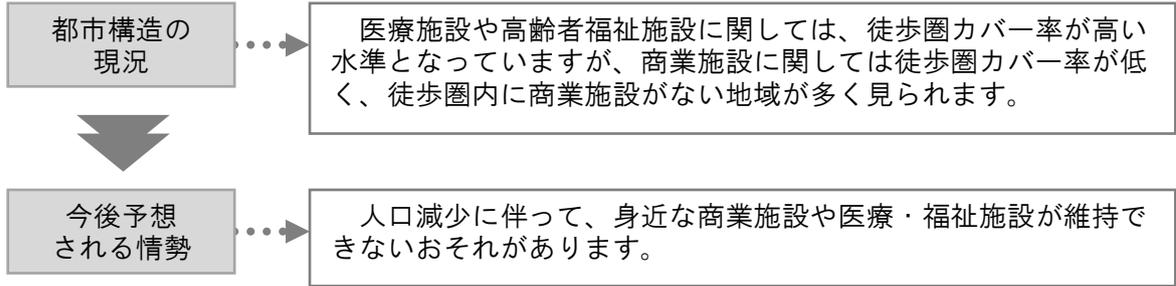


図 医療施設の分布状況 (H28)



図 高齢者福祉施設の分布状況 (H28)



図 商業施設の分布状況 (H28)

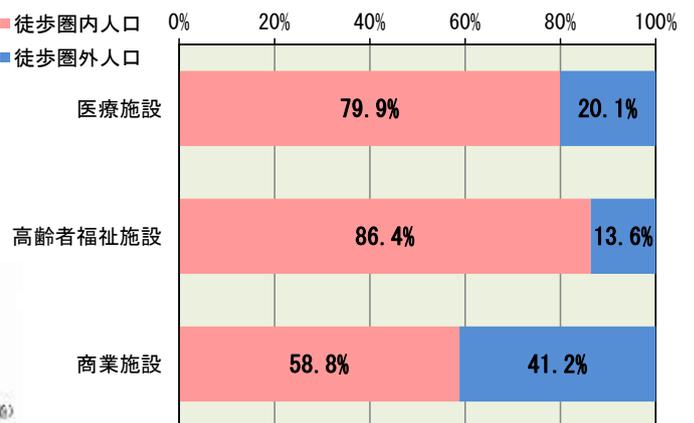
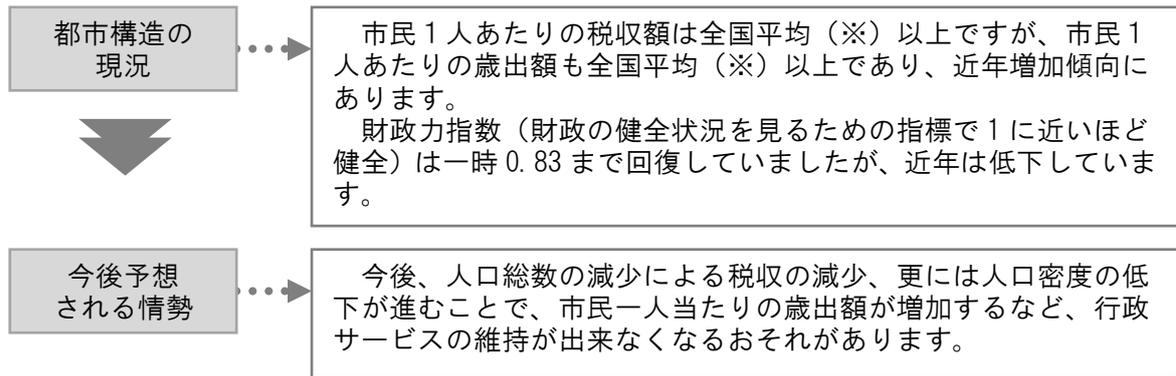


図 主要施設の徒歩圏カバー率 (H28)

- ・ 医療施設 (病院、診療所 (内科を含む施設のみ抽出))
- ・ 高齢者福祉施設 (訪問介護事業所、通所介護事業所 (デイサービス)、地域密着型通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所、地域密着型サービス)
- ・ 商業施設 (日用品を購入できる店舗面積 1,000 m²以上のスーパー、百貨店、ドラッグストア (専門店、ホームセンターは含まない))

(5) 税収の多さと歳出の多さ



※「都市構造の評価に関するハンドブック」(平成26年8月:国土交通省)で示された、地方都市圏のおおむね30万都市(10~40万人)の全国平均値

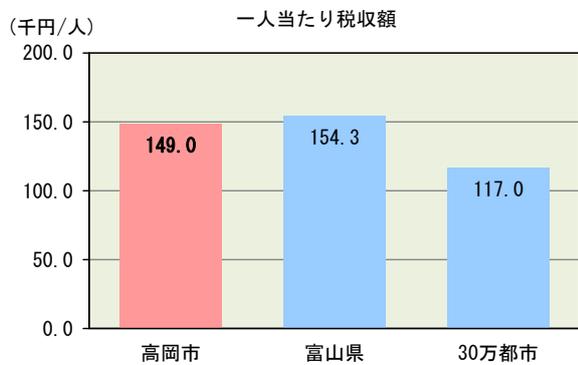
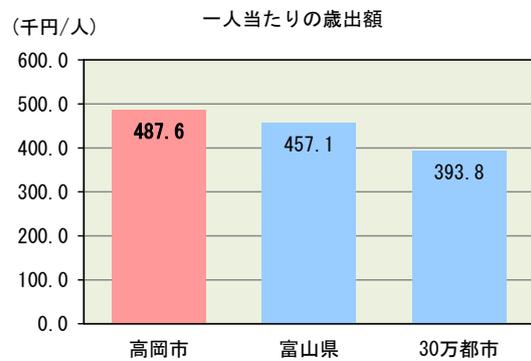
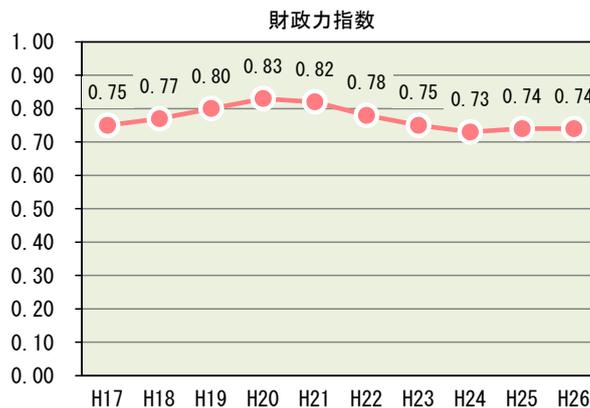


図 一人当たりの税収額 (H26)



(資料: 富山県統計年鑑 (H26)、国勢調査 (H27))

図 一人当たりの歳出額 (H26)



(資料: 財政比較分析表・歳出比較分析表)

図 財政力指数の推移

2

都市構造から見た高岡市の課題

都市計画マスタープランでは、「上位・関連計画の方向性」、「市民アンケート」や「都市構造の分析」などから、本市の「強み」と「弱み」を整理し、都市計画上の課題と都市づくりの基本方針をまとめています。その中でも本計画では、特に都市構造の面を中心に次のとおり整理しました。

(1) 高岡市の都市構造における強みと弱み

●高岡市の「強み」

○公共交通の利用環境の良さ

- ・北陸新幹線によって大都市圏と結ばれているほか、あいの風とやま鉄道、JR 氷見線・城端線、万葉線など、複数の鉄軌道によって市内及び周辺都市が連絡されています。
- ・公共交通利便性の高いエリアに立地する住宅も多く、公共交通を利用しやすい環境が整っていると言えます。

○充実した医療施設

- ・高岡医療圏の基幹病院（高岡市民病院、厚生連高岡病院、済生会高岡病院、高岡ふしき病院）も立地しているほか、徒歩圏内で利用可能な医療施設の数も多いことから、これからの高齢社会において需要が高まる医療施設の利便性が高い都市となっています。

○ものづくり産業 ※都市づくりの基本方針より

- ・ものづくり産業（製造業）は、特に金属製品、プラスチック製品、化学工業、非鉄金属、パルプ・紙・紙加工品などの集積が大きく、地域外から資金を獲得する基幹産業となっています。

○歴史・文化 ※都市づくりの基本方針より

- ・市内に分布する多くの歴史・文化資産を保全・継承するため、これらの活用を図るとともに、高岡の文化力を活用した取組を展開することが必要となります。

●高岡市の「弱み」

○自動車への高い依存度

- ・自動車を利用して生活する市民の割合は年々増加しており、公共交通の利用者は減少し続けています。また、自動車での移動距離も年々増加しつつあり、自動車を利用しないと生活できない状況が広がりつつあります。

○インフラ整備への歳出増

- ・北陸新幹線の開通に向けて積極的な都市基盤整備を進めてきたこともあり、インフラ整備に関する歳出が増大してきました。このため、一人当たりの歳出額が多い財政構造となっています。
- ・今後は、民間活力による既存ストックを最大限活用し、人口規模に応じた財政構造への転換が求められています。

○徒歩圏内の商業施設不足

- ・市街地内でも徒歩圏内に商業施設が無い地域があり、日常の買い物の面では利便性は高い状態です。

○空き家の増大

- ・空き家の多さは、全国の同規模都市と比較しても高い水準となっており、既存ストックや有休不動産が有効に活用されずに空き家・空き家がランダムに発生している状況は、居住や都市機能を誘導する上での大きな課題です。

(2) 高岡市の都市構造上の課題

本市の現況、そして都市構造上の強みと弱みを踏まえて、今後立地適正化計画によって対応していく必要がある都市構造上の課題を整理します。

① 既存ストックを有効活用したコンパクトな市街地の維持

これまで整備してきた既存ストック（公共施設やインフラ）を有効に活用し、新たな基盤整備への投資を抑制することで、健全な都市経営を持続できる都市構造を確立することが必要です。

郊外部への市街地の拡大を抑制するため、市街地内の遊休不動産（空き家や空き地）の積極的な活用や、都市農業も含めた都市内の農地の保全・活用を検討し、一定の人口密度が維持されたコンパクトで持続可能な都市構造を目指す必要があります。

② 中心市街地・周辺市街地における都市機能集積の維持・強化

県西部の中核的都市として担うべき広域の都市機能と、各市街地の生活を支える医療や商業などの都市機能を今後も維持し続けるために、徒歩や公共交通で暮らせる環境づくりと併せて、市街地の特性や役割に応じた多様な都市機能の集積を維持・誘導することが必要です。

特に中心市街地においては、人口減少と高齢化、そして商業面での空洞化や魅力の低下が問題となっていることから、歴史・文化資源も活用した交流の場の創出など回遊性向上を通じて、人々の賑わいを呼び戻すことが必要です。

③ 都市活力を支える産業集積の維持

本市の強みである高い税収力を維持するためには、ものづくりを中心とする産業集積の維持と、働く場の確保を通じた労働力人口の増加が重要となります。

このため、これまで整備してきた企業団地等の産業基盤の維持・充実と併せて、市街地内においても、民間活力を最大限活用し、商業・業務機能の強化、地場産業・伝統産業の活性化などを図り、多様で魅力的な働く場を確保する必要があります。

④ 公共交通を利活用できる環境づくり

自動車の利用は、今後も多くの人々から必要とされることが予想されます。今後進展する高齢化の中で、過度な自動車への依存は、自動車を運転できない高齢者にとって生活しづらいまちになるおそれがあります。

このため、本市には、市街地間、周辺都市間を連絡する鉄軌道が発達していることから、その公共交通を利活用するライフスタイルへの転換が必要となります。